

聖学院大学 第3回大学評価会議 報告書(総括)

I 聖学院大学 第3回大学評価会議 実施概要

1. 趣旨

聖学院大学の教育方針・内容及び学外との連携などを対象にした自己点検・評価による改善に関して、地元自治体及び地域の経済団体等からご意見・評価を頂き、一層の大学教育の拡充及び地域との連携の推進を図る。

2. 外部有識者に意見・評価を求める事項

議題1. 内部質保証に関する事項

- 1) 内部質保証体制、認証評価受審結果、自己点検・評価

議題2. 教育課程編成に関する事項

- 1) 高大接続に伴う入試改革、入学者受け入れ
- 2) 教育課程編成・学習成果の可視化

議題3. 地域連携及び産学官連携に関する事項

- 1) 地域連携及び産学官連携
- 2) 持続可能な開発目標 (SDGs)
- 3) キャリア支援

3. 外部委員

日本薬科大学 副学長 都築 稔 氏

放送大学埼玉学習センター 所長 堀尾 健一郎 氏

埼玉県教育局県立学校部高校教育指導課 教育指導幹 杉田 和明 氏

上尾市市民生活部 次長 黒田 正司 氏

さいたま市教育委員会学校教育部高校教育課 主席管理主事 石井 康仁 氏

埼玉経済同友会 専務理事 大石 克紀 氏

上尾商工会議所 専務理事 三井田 晴宏 氏

さいたま商工会議所 総務・会員サービス部長 八島 健 氏

さいたま北商工協同組合 副理事長 新井 一年 氏

埼玉県社会福祉協議会 次長 石山 英雄 氏

4. 開催日時・場所

日時：2022年8月3日(水) 午前10時00分～12時00分

方法：ハイブリッド開催(Zoom) (対面会場：聖学院大学 4号館4階4402教室)

出席者：外部委員 10名、内部委員 18名(2名欠席)

II 外部委員の意見・評価

議題 1. 内部質保証に関する事項

2021 年度大学基準協会による認証評価受審の結果、適合判定を得たこと、また重篤な指摘がなかったことについて評価を受けた一方、内部質保証体制図において PDCA サイクルが見えず内部質保証の仕組みが分かりにくいいため、内部質保証体制図の再検討を行うべきとの指摘がなされた。

議題 2. 教育課程編成に関する事項

高大接続に伴う入試改革、入学者受け入れについて、入試や留学生の受け入れに関する改革への評価を得た一方で、少子化の続く中、どの大学においても厳しい時代が続くとの意見を得た。また本学において早くから取り組んでいる SDGs や地域連携活動を中心に高大連携を推進し、学生募集を強化していくのがよいのではないかという意見を得た。

教育課程編成について、データサイエンスを学ぶデジタル・シティズンシップ科目の全学共通科目としての開設について、新学習指導要領の開始、情報 I の必修化を受けた高大接続、社会的ニーズの観点から複数の委員より高い評価を得た。

学習成果の可視化について、観点別評価であるルーブリックの導入やグラフを用いたポートフォリオ、ディプロマサプリメントの導入検討について、学生自身の振り返りや客観的な自分の強み・弱みの理解につながるという点から評価を得た。

議題 3. 地域連携及び産学官連携に関する事項

地域連携及び産学官連携について、埼玉県内 9 市町村との包括連携協定の締結について評価を得た一方、地域の商工会議所、商店街等との連携をより深めていくことも大事であるとの意見を得た。また地域連携活動の助成金制度について非常に良い取り組みであるとの評価を得た。

持続可能な開発目標（SDGs）について、社会的な課題への幅広い取り組み、大学の一つの柱として活動を推進している所について好意的な評価を得た。

キャリア支援について、現在の取り組みを進め今後に期待したい、大学で培ったスキルを地元企業において活用してほしい、高等学校や就職先企業と対話を重ねてほしいとの意見・評価を得た。

III. 外部委員の意見・評価を受けた聖学院大学学長の所見・総括

学長として、地域との連関を念じ大学を運営してきたが、本会議のご指摘・ご意見を伺い、地域との連関が少しずつ出来てきたと感じる。勿論私達の方だけではなく、地域等ご関係の皆様にご協力・ご尽力をいただいたおかげと考えている。

この 10 年、20 年の間に知のあり方が大きく変わっていきだろと思う。大学がそれに対していかに有効に臨むか、人間の本来のあり方の洞察から、知識が実践に結びつかないような知識・教養のあり方をどう変革できるか。大学が地域の課題とどう関わっていくか、ローカルな事項が実は普遍的な、人類全体の課題でもある、という視点をもっていきたい。具体的に、かつ大学らしく学問に関わっていくことを、様々なご意見・評価をいただいた中から改めて日頃の大学を省み、また明日からの歩みにつなげていきたい。

以上